



史蹟史料部

2025年2月25日

#66

日本人墓地公園 ニュースレター

古藤秀三の墓

今回は御堂（ニュースレター#3）の向かいにある古藤秀三の墓をご紹介します。場所は、[西村吉夫の墓（ニュースレター#36）](#)の向かって右隣りです。

古藤秀三は南洋日日社の社長で、『南洋日日新聞』は日本人の南洋拡大への主な経済拠点だったシンガポールで1914年に発刊されました。当初は謄写版（がり版）でした。東京にも支社がありました。



1914年4月1日発刊第1号

東南アジアで最も早く日本語新聞が刊行されたのはシンガポールで、1909年7月に「南洋新報」が創刊されました。古藤は南洋新報に入社後、医師 山本作次郎などの支援を得て、中野光三（ニュースレター#14）の題字の入った「南洋日日新聞」を創刊しました。

1915年、新嘉坡日本人会創立時の初代理事22名の中に、古藤秀三の名前があり、その後は会長も務めています。

中野光三記念碑建設委員に名を連ね、二葉亭四迷の碑（ニュースレター#5） 建立にも尽力するなど、日本人墓地公園に眠る日本人社会に貢献した先人たちの記録にその名が多く登場する人物でした。

御堂の中には現在も、下の古藤の葬儀の写真が飾られています。場所は不明ですが、「日本人会々葬 新嘉坡日本人会」とあり、当時の参列者のために用意された当時の高級車が並んで盛儀が偲ばれます。

参考文献：「シンガポール日本人墓地公園 - 写真と記録 改訂版 -」
シンガポール日本人会 史蹟史料部 1993年改訂版発行

